

社会福祉施設における

安全衛生対策

腰痛対策・KY活動



厚生労働省・都道府県労働局

労働基準監督署

はじめに

わが国の労働災害による死傷者数を産業別にみると、第三次産業の割合が年々増加しています。特に、老人介護分野においては、今後一層の高齢化の進展により介護労働者の増加が見込まれ、労働災害の増加が懸念されています。

このような背景を踏まえ、『社会福祉施設（老人介護施設、保育施設、障害者施設）』を対象に、安全衛生水準の向上と労働災害防止のためにぜひ行っていただきたい腰痛対策と危険予知活動（以下「KY活動」）についてのテキストを作成しました。

■ 安全活動

社会福祉施設では、安全・安心・快適な生活環境を利用者に提供することを最も重要な責務としています。そのためには、まずサービスを提供する施設職員の安全や健康が保たれていなければなりません。

施設職員の業務は、利用者の生活に密着して、食事・入浴などの生活支援と介助、生活指導など広く多岐にわたりますが、これらを限られた人員で対応しているのが実状と思われます。こうした職場環境の中で安全衛生対策を進めるには、施設の運営者、管理者、職員がそれぞれの持ち場・立場の任務と責務を明確にして全員で取り組むことが効果的です。

このパンフレットでは、4S活動、危険の「見える化」など主な安全活動の内容を紹介します。

■ 腰痛対策

腰痛は、業務上疾病の発生総数のうち6割以上を占めています。特に社会福祉施設では、腰部に過重な負担のかかる作業が多いため、腰痛が発生しやすい状況にあり、予防対策が不可欠です。

厚生労働省は業務上の腰痛予防対策として、平成25年6月に「職場における腰痛予防対策指針」を改訂しましたが、介護労働者の腰痛が増加していることから、「福祉・医療等における介護・看護作業」について重点として腰痛予防対策を示しています。

このパンフレットでは、この指針を踏まえ、社会福祉施設における腰痛予防の取組がなされるよう、わかりやすく進め方及び具体的な取組事例を紹介します。

■ KY活動

危険予知(K(危険)Y(予知))活動とは、現場で作業を開始する前に、その作業に伴う危険に関する情報をお互いに出し合い、話し合って共有化し、危険のポイントと行動目標を定め、作業の要所要所で指差し呼称を行って安全を確認してから行動するものです。

このパンフレットでは、KY活動を社会福祉施設で実践するための手法を紹介します。

目次

はじめに	2
------	---

目次	3
----	---

I 社会福祉施設における安全衛生対策 4

第1 社会福祉施設における労働災害発生状況	4
-----------------------	---

第2 労働災害の発生と企業の責任	6
------------------	---

第3 安全衛生教育	7
-----------	---

II 安全活動 8

第1 安全活動について	8
-------------	---

第2 主な安全活動の内容について	8
------------------	---

第3 安全推進者について	9
--------------	---

III 腰痛対策 10

第1 働く人の腰痛	10
-----------	----

第2 腰痛予防対策の進め方	12
---------------	----

第3 施設別腰痛予防のポイント	25
-----------------	----

第4 腰痛予防対策取り組み事例	34
-----------------	----

IV KY活動 40

第1 KY活動とは	40
-----------	----

第2 災害はなぜ起こるのか	41
---------------	----

第3 安全衛生をみんなで進めよう	42
------------------	----

第4 KY活動を定着させよう	43
----------------	----

第5 KYTの手法	45
-----------	----